

基本

300

マークシート式解答用紙付

現代
古典 国語基本300題



学生社

¥680

編者の誤解により検印省略します

新国語基本300題

編 者 峰 高 久 明

発 行 者 鶴 岡 隆 巳

発 行 所 株式 学 生 社
会 社

東京都千代田区九段南2-2-4

振替・東京・1-18870・電話(263)2611

791

★落丁・乱丁本はおとりかえします

編集担当 三 木 敦 雄

Printed in Japan

基本300

現代
古典 国語基本300題

開成高校 峰高久明＝編



学生社

本書の特色と使い方

- 基礎力の点検と向上にすぐ役立つように、すべて
の問題は共通一次テストと同じ客観式（マークシート方式）の問題で構成してあります。

- この問題数は、〈基礎力〉を徹底的につけるためには何題にしたらよいか、高等学校の各教科の先生方と教科の特殊性も考慮に入れて検討した結果、決まったものです。1日1題で約1年、1日5題やれば2か月で〈基礎力〉を徹底できます。教科書の傍用や、受験前の〈基礎力〉再点検用など、いろいろな用途・目的に使用できます。

- 各教科の特殊性を考慮に入れて構成してあります。〈基礎力〉が効果的に身につくよう、さまざまな点から問題を分類してあります。

- 問題はすべて基本的な問題ですが、その中でも、やさしいものからむずかしいものへと段階的に配列してあります。大学入試問題を改作したり、新創作問題を加えて、学習しはじめて間もない人から国公立の共通一次テストをめざす人まで、つまり高校1,2年生から受験生までの〈基礎力〉の向上がはかれるように、編集してあります。

- すべての問題に、解き方の指針となる「ヒント」がつけてあります。自信のない人は「ヒント」をみてもかまいません。できれば、1回目は「ヒント」をみてやり、2回目は「ヒント」をみないでやるようお勧めします。2回目はおどろくほど問題がやさしく思えるはずです。それは実力が身についた証拠です。

- 問題を解きながらすぐ記入できるように、「マークシート方式の解答用紙」を別冊でつけてあります。

- 解答も学習しやすいように、別冊でつけました。たんなる解答の結果だけでなく、正解までの筋道や問題点などの、「解説」をつけてあります。結果の答が合っていても、かならず「解説」には目を通してください。

以上のような、特色や学び方をじゅうぶん理解して、自分に合ったペースで300題を征服して、どうか〈基礎力〉を徹底させてください。

はしがき

本書は、高校一年生から大学受験生までの、現代国語・古典国語・漢文の基礎力の養成を目標としたもので、さらに選択問題形式の設問は共通一次テストへの対策にもなるように企画したものである。話す前にまず聞くことが、書く前にまず読むことが、国語の基礎力を身につける上での基本であるという前提のもとに、まず正確な読解力を身につけるという目標で編んだものである。

国語の学習というと、「勉強しても点数は上がらないし、しなくてもある程度点数はとれる。それなら他の科目でかせいだほうがましだ」といった声をよく耳にする。事実、数学や英語で0点をとることはあっても、国語で0点をとることなど、まずありえない。よく本を読め、ということ言う人もいる。しかし、そのために万巻の書を読んでいたのでは、目的地に着く前に日が暮れてしまう。

国語を勉強しても成績が伸びないのは、教え方が教わり方に問題があるのだ。たしかに本をたくさん読むということは大いによろしい。しかし、肝腎なことは、書かれている内容を正確に理解することであって、本を読むといっても、国語は「人間の生き方」であるとか「繊細な感受性」とかを養う学問ではないということだ。この点の誤解が、国語学習の目標をとらえにくくしているようだ。たとえば、国語の作文で「親孝行」と題する次のような二つの答案があったとする。

(A) 「私を現在まで育ててくれた両親に私は大変感謝しています。これからは大いに親孝行をしたいと思います。私は両親の老後が健全なもので終わることを祈ってやみません」

(B) 「私は両親を大変きらっています。口を開けば勉強勉強で、勉強以外に私に期待するものがないのでしょいか。現在の私に親孝行など考えられません」

諸君はどちらの作文にいい点数をつけるだろうか。私なら(A)はせいぜい四〇点、(B)には八〇点以上をつけよう。繰り返すけれども、国語の学習とは、思想や情操を養うことではないのだ。(A)の作文の「老後が健全なもので終わる」とはなにを意味するのか、読み手に正確に伝わるだろうか。まるで両親が健全な生活をしていないかのようだ。その点、(B)のほうは両親をきらう理由も明確で、読み手にもその心情は正確に伝わってこよう。

諸君が国語に接するのは二つの場合しかない。諸君が聞き手（読み手）になるか、話し手（書き手）になるかのいずれかの場合である。そのさい、聞き手と話し手にはなにが要求されるか。聞き手は相手の話す内容を正確に聞き取り、話し手は相手に正しく伝わるように正確に表現する。これ以外にない。相手の話をろくすっぽ聞きもしないで、自分勝手な言葉でしゃべりまくったのでは、コミュニケーションなど成り立たない。誤解するというのは、相手の話を正確に理解しないからであり、誤解されるというのも、相手に正確に伝えないからである。そう心得て間違ひはない。この基礎力を養うのが国語学習の目標である。(B)の作文を書いた人の、「親孝行など考えられない」という心情の是非と、国語学習とはまったく次元の異なる問題なのである。

選択問題形式は、国語学習の基本である正確な表現力を問うことができないという欠点はあるが、速く正確な読解力を養うには非常に効率がよい。全問に「ヒント」を付けたのも、速く正確な読解力を身につけることがねらいであり、たんなる問題集としてでなく、国語の基礎力を身につける必要最低限の参考書の役割りをも意図したからである。

まず自力である程度の解答を組み立ててみる。選択肢をすべて当てはめてみるような幼稚な方法は絶対にとらないこと。出題者の表現力のほうがおおむね勝っているであらうから、その巧妙な言い回しにまどわされるといふ危険性がある。文章中に解答の「ヒント」が見出せるまで、時間をかけてじっくり読む。「ヒント」が見出せたら、巧妙な言い回しの選択肢にぶつかっても、自分が正しいと思う選択肢を自信をもって選ぶことである。その後で別冊解答の「解説」を読み、自分の考え方を十分に検討して、正しい読解力を身につけてもらいたい。選択肢をトーマメント式に選んでゆく、いわゆる「消去法」は、対応策としては一つの技術だが、あくまで自分で解答を組み立ててみて、それに合致するものを選ぶという基本を忘れてはならない。

ともあれ、速くて正確な読解力という国語の基礎力が身につけば、いかなる難問にぶつかろうとも、おびえることはない。自信をもってぶつかることだ。各問の「ヒント」および別冊解答の「解説」をフルに活用して、十分な基礎力を養ってもらいたい。高校生・受験生諸君の健闘を祈ってやまない。

目次

現代国語編

一、小説	八
二、隨筆	三三
三、評論	五〇
四、詩	八七

古典国語編

一、基本問題	九四
二、物語	九九
三、日記・隨筆	一〇八
四、歴史・說話	一一九
五、詩歌	一二七

六、文学史		一二九
七、文法		一三一
八、漢文		一三四
解答		別冊
マークシート式解答用紙		別冊

現代国語編

一、小説

(一) 次の文章の空欄ア、オのそれぞれをうめるのに適当なものを、あとにあげた①～⑨の中から一つずつ選び、その番号をマークせよ。

顔を洗ふと云つた所で、上の二人が幼稚園の生徒で、三番目は姉の尻についてさへ行かれない位小さいのだから、正式に顔が洗へて、(ア)御化粧が出来た筈がない。一番小さいのがバケツの中から濡れ雑巾を引きずり出してしきりに顔中撫で廻はして居る。雑巾で顔を洗ふのは(イ)心持ちがわるからうけれども、地震がゆる度におもちろ、いと云ふ子だから此位の事はあつても驚くに足らん。(ウ)長女は長女丈に、姉を以て自ら任じて居るから、うがい茶碗をからからかと抛出して「坊やちゃん、それは雑巾よ」と雑巾をとりにかかると、坊やちゃんも中々自信家だから(エ)姉の云ふ事なんか聞きさうにしない。雑巾は此時姉の手と坊やちゃんの手で左右に引つ張られるから、水を含んだ真中からばたばた雪が垂れて、(オ)坊やの足にかかる。

- ① せめて ② さすが ③ 器用に ④ いつも ⑤ 容易に
⑥ 間違ひなく ⑦ 容赦なく ⑧ 定めし ⑨ 懸命に

(愛知大)

△ヒント▽ 対応関係にある語、呼応のある語に注意せよ。ごく基本的な問題であるので、表現上の構造を正確にたどること。

(二) 次の文章の中心となることごとしとして最も適当なものを後の項目から選び、マークせよ。

その人は大きなマドロスパイプをくわえ、セッターを先に立て、長靴で霜柱を踏みしだきながら、初冬の天城の問道のくさむらをつくり分け登って行った。二十五発の銃弾の腰帯、黒褐色の革の上衣、その上に置かれたチャーチル二連銃、生きものの命絶つ白く光れる鋼鉄の器具で、かくも冷たく武装しなければならぬものは何であらうか。行きずりのその長身の獵人の後ろ姿に、私はなぜか強く心ひかれた。

その後、都会の駅や盛り場の夜ふけなどで、私はふと、ああの獵人のように歩きたいと思うことがある。ゆつくりと、静かに、冷たく……。そんなとき、きまって私のまぶたの中で、獵人の背景をなすものは、初冬の天城の冷たい風景ではなく、どこか落莫とした白い河床であつた。そして、一個の磨き光れる獵銃は、中年の孤独なる精神と肉体の双方に、同時にしみ入るような重量感を捺印しながら、生きものに照準されたときはけっして見せない、ふしぎな美しさを放射しているのであつた。(井上靖『獵銃』による)

(注) ○セッター＝獵犬の種類の名 ○天城＝伊豆半島の山岳地帯

○チャーチル二連銃＝イギリス製の高級な獵銃

- ① 武器であるにもかかわらず、獵銃のもっているふしぎな美しさ
② 初冬の天城にふさわしく、冷たく白い光をおびた獵銃の重量感

④ 琴瑟相和するという故事もあるが、そのように、誰が能く耳を傾けて聴いてくれましようか。

⑤ ピアノをひくのに、おなじキーばかりたたいていても、誰もきかない。

△ヒント▽ 「調和」の成立する条件は何か。

* * *

次の文章を読んで、「五」～「二〇」の問に答えよ。

弦に応じて一箭^やたちまち五羽の大鳥が鮮やかに碧空^{きよく}を切って落ちてきた。一通りできるようじゃな、と老人が穏やかな微笑を含んで言う。だが、それはしよせん射之射^{しやせんしや}というもの、好漢いまだ不射之射を知らぬと見える。

ムツとした紀昌を導いて、老人は、そこから二百歩ばかり離れた絶壁の上まで連れて来る。脚下は文字通りの屏風のごとき壁立千仞^{せんぜん}、はるか真下に糸のような細さに見える溪流をちよつと覗いただけでたちまち眩暈^{めまい}を感じるほどの高さである。その断崖^{だんが}からなかなば宙に乗り出した危石の上につかつかと老人は駆け上り、振り返って紀昌に言う。どうじゃ、この石の上で先刻の業を今一度見せてくれぬか。今更引込みもならぬ。老人と入れかわりに紀昌がその石を踏んだ時、石は微かにグラリと揺らいだ。強いて気を励まして矢をつがえようとすると、ちょうど崖の端から小石が一つ転がり落ちた。その行方を目で追った時、覚えぬ紀昌は石上に伏した。脚ははなわなと顫え、汗は流れて踵にまで至った。老人が笑いながら手を差し伸べて彼を石から下し、自ら代わってこれに乗ると、では射というものを御目に

かけようかな、と言った。まだ動悸がおさまらず蒼ざめた顔をしてはいたが、紀昌はすぐに気がついて言った。しかし弓はど

うなさ、弓は？ 老人は素手だったのである。弓？ と老人は笑う。弓矢の要るうちはまだ射之射じゃ。不射之射には、烏漆の弓も肅慎の矢もいらぬ。ちやうど彼らの真上、空のきわめて高い所を一羽の鷲が悠々と輪を画いていた。その胡麻粒ほどに小さく見える姿をしばらく見上げていた老人が、やがて、見えざる矢を無形の弓につがえ、満月のごとくに引き絞ってひようと放てば、見よ、鷲は羽ばたきもせず中空から石のごとくに落ちて来るではないか。

紀昌は懷然とした。今にして始めて芸道の深淵を覗き得た心地であった。

〔五〕 紀昌と老人の会話体の部分（一つの「」の中に入るもの）はそれぞれいくつあるか、その数を次の中から選び、マークせよ。

① 5 ② 6 ③ 7 ④ 8 ⑤ 9

（日本大）

△ヒント▽ 文脈から判断するのはいうまでもないが、敬語の有無も手がかりとなる。

〔六〕 紀昌が懷然とした理由はなにか。次の中から正しいものを選び、マークせよ。

① 千仞の崖の上の石がグラリと揺れたので

② 不射之射の意味が現実理解できたので

③ 中空から石のごとく落ちてくる鷲に当たりそうなので

④ 手に持つ弓矢も無形に見える、芸道の深さをひしひしと感じたので

△ヒント▽ 「芸道の深淵」とは、何を言い換えたものか。

〔七〕 — 線部「好漢」・「踵」を使った次の言葉の空白部を、後の①～⑥から選んでマークせよ。

A 好漢 [] せよ B 踵を [] して

① 軽く ② 気力 ③ 接 ④ 後悔 ⑤ 自重 ⑥ 付

⑦ 捨 ⑧ 一新

△ヒント▽ 複合サ変の動詞だが、頭部にくる語とのつながりで意味の自然なものを選ぶ。ともに慣用語である。

〔八〕 — 線部「更」・「要」の字を用い、次のA～Dの意味を持つ熟語を作り、熟語の下文字を後から選び、マークせよ。

A 改めただすこと B 出直すこと

C 重要な事がらをまとめたもの D 必要な事がら

更——① 改 ② 新 ③ 生 ④ 正

要——⑤ 件 ⑥ 綱 ⑦ 領 ⑧ 覧

△ヒント▽ 組み合わせによって紛らわしい熟語ができるが、微妙な差をよくおさえること。

〔九〕 次の問の空白部に入る語をマークせよ。

A 〓線部「なさる」は、敬語のうち [] 語である。

① 礼儀 ② 丁寧 ③ 謙讓 ④ 尊敬

B 〓線部「放て」の、「放」の部分 [] と言いい、「て」の部分 [] と言え。

ア ① 主語 ② 語幹 ③ 頭韻 ④ 語頭

イ ① 語根 ② 活用語尾 ③ 結語 ④ 脚韻

△ヒント▽ A・Bともに即答できぬものは、基礎的事項をさらっておくこと。

〔二〇〕 問題文の作者は中島敦である。彼について次の中から正しく触れているものを一つ選び、マークせよ。

① 『光と風と夢』『弟子』などは、大正期のロマン的作風を代表する作品である。

② 中国古典に取材した『山月記』『李陵』などの傑作を残し、昭和十七年に没した。

③ 『山月記』は昭和二十年代を代表する作品で、彼は戦後派作家の旗手といわれた。

④ 『光と風と夢』はイタリア文学に取材したもので、彼のヨーロッパ留学中の作品である。

△ヒント▽ 中島敦の活躍した時代と、作品に取材された題材に注意する。

* * *

次の文章を読んで、「二一」「二四」の問に答えよ。

旅の出がけに謙作は、手紙を待たぬように、便りがなければ無事と置いていい、と言い置いて来た。そしている所を知らせなかったから、(注1)直子からの便りもなかったわけだが、今日お由から竹さんの話を聴くと、(注2)急に手紙を書く気になった。出発前と同じア [] を直子に考えさせておくことがかわいそうになり、かつ、それはよくないことに思われてきた。悲し気な眼つきをしながら、子供のように首を傾け、「本当

に、もう僻^{ひが}まなくてもいいのね」という直子の姿を憶い、彼は不憫にもなるが、不愉快な気持ちにもなる。直子はどうしても完全に赦^{ゆる}されたという自信が持てない。仮令^{たとえ}赦されてもイ^いだけには赦されたと思つてはならぬと思つている。赦されたと安心すれば、その時、不意に謙作から平手で顔を叩かれるような事が起こると思つている。これは謙作の寛大になりきれない気がウ^うにそう思わせるので、謙作自身にとってはaこの意識は苦しかった。直子がつい犯した過失に対し、それ程執拗^{しつこ}に拘泥^{こうぎ}するのはつまらない、そのため、b更に二人が不幸になるのは馬鹿氣でいる。しかしそう思うのは功利的な気持ちも含まれていて、エ^え自身としては愉快でなかった。また直子からいえば、それでは本当に安心することができないのだ。しかし腹から寛大にないのなら、せめて、これより仕方ないではないかと、オ^おは腹立たしく思うのだ。そして、こういう自分の気持ちを純化するのが、この旅の目的だったが、幸いにも、それが案外に早く彼に來たのだ。

(注1) 直子は謙作の妻。(注2) お由は謙作の宿泊する寺の娘で、いま里帰り中である。屋根屋の竹さんの妻は悪妻であるが、竹さんは別れもせず、耐えてあきらめていると、お由は謙作に話したのである。

(京都女子大)

(一一)

空欄ア～オの中に入る語を次の①～③から選び、マークせよ。

- ① 謙作 ② 直子 ③ 自分

△ヒント▽ 謙作は直子に対して、どういう感情の状態にあるか、を

中心に考える。

(一二)

傍線aを謙作自身はどのように解消しようとしているか。次の中から最も適当なものを選び、マークせよ。

- ① 寛大になれるのは自分の性格だから甘受すべきことだ。
② つまらない馬鹿氣なことだ。自分は早く寛大になるべきだ。
③ 寛大になれるのは自分の性格だから仕方がないじゃないか。
④ 直子さえ寛大になれば自分も寛大になれるはずだ。

△ヒント▽ 作者は、謙作が自分の「寛大さ」について、どのように理解していると述べているか。

(一三)

傍線bは、すでに二人が不幸な状態にあることを示している。その状態は、なにによってもたらされたか、次の中から選び、マークせよ。

- ① 直子への手紙 ② 直子の過失 ③ 謙作の旅
④ 謙作の寛大さのなさ

△ヒント▽ 謙作がそれはどこだわっているものは何か。

(一四)

右の文章は志賀直哉の代表的長編小説の一部であるが、Aその作品名と、B作者の属していた文学流派の名称とを、次の中から選び、マークせよ。

- A ① 城の崎にて ② 和解 ③ 暗夜行路 ④ 焚火
B ① 自然主義 ② 高踏派 ③ 浪漫主義 ④ 白樺派

△ヒント▽ 長編小説という点をとらえるべきだが、常識的な問題ではある。

* * *

次の文章は、ある小説の冒頭部分である。よく読んで、(一五) (二〇)の間に答えよ。(I—VIは、段落番号である。)

I 眼を開くと、闇はいっそう深かった。私が目覚めるときはいつも夜だ、と節子は思った。湿気を含んだ冷ややかな空気が頬や手足の皮膚に触れる。眼で見る世界が消えてしまうと、代りに皮膚が目覚めるのであろうか。右手をのばして、そこに濡れた土肌を探り当てる、指先にもまた小さな目がついていて、壁を支える柱や梁の一本一本が、はっきりと見えるのだった。壁は冷たくて、意外にもろい。爪を立てて搔いていくと、限りもなく崩れていく感じであった。

II しかし、この壕舎を掘るときは、父も兄も大げさに疲れた、疲れたといったのだ。

III 防空壕の中には何を入れるの。お布団と非常食糧と救急箱俺の汽車ポッポ忘れるなよ。これがないように、一番奥に、昔おじいちゃんが使っていた皮のトランクに入れてな。ばか、防空壕は家族みんなが身体だけ入れればいいんだ。

IV キャラメルの空箱を墨汁で黒くぬり、糸でつなげて、白いクレパスで、べんけいごう 一ねん一くみ、大いずみはじめと

苦心して書いた兄に、a ついさっきも、節子は逢った。輩は赤い頬をふくらませ、口をとがらせてクレパスを握っている一年坊主なのに、節子はすきようもなく乱れた髪に虱をたからせて、身動きも出来ずに横たわっている現在の姿だった。こどもの兄の無関心なよそよそしさに、夢の中で、b 絶句して涙を流した。

V 節子、水、くれ。笑った歯の白さと、首にまいたタオルの白さが、闇に鮮やかに浮かぶ。壕の穴から掘り出した土は庭土

の上に平均に盛られた。野菜畑になるはずであった。この辺は関東大震災のあとで埋め立てた土地だからねえ。ろくな南瓜もならないかもしれないよ。台所の窓から姉さまかぶりの母の声がする。スコップや鍬やバケツや板切れや金槌や釘箱などが狭い庭に勝手な方向にころがっていた。縁側に腰をおろして地下足袋を脱いだ肇の足は、恥ずかしいほど白く、そのくせ指の甲には長い毛が生えていた。おにいちゃんの足、へんな足。指はちゃんと五本あるはずだぞ。だって毛が生えているんだもの。人間にはどこにも産毛ってものがあるんだ。これが！すごい産毛！

VI さつまいもの湯気の中で、笑いあった。あたたかい晩秋の日曜日。あのととき、本当に防空壕に身をひそめる時があるうなどとは、思いもしなかったのである。(広島大)

(一五) 右の文章には、会話の言葉であることを示す符号(「」)が用いられていない。Ⅲ段落以後の文章について、

ア もし、会話のことばに「」をつけるゝとすれば、いくつづくことになるか。「」を一つと数えて、その数を次の中から選び、マークせよ。

① 九 ② 一〇 ③ 一一 ④ 一二 ⑤ 一三
イ 会話のことばのうち、肇のことばはいくつあるか。「」の数を次の中から選び、マークせよ。

① 二 ② 三 ③ 四 ④ 五
ハ ヒント▽ 男と女・子どもとおとなのことばの違い、問答の切れ目に注意する。

〔二六〕

右の文章では、節子の、現在の状態、思ひ出、夢の中の
こと、の三つが描かれている。本文中、「夢の中のこと」
が描かれている段落はどれか。段落番号を選び、マークせよ。

- ① I ② II ③ III ④ IV ⑤ V ⑥ VI

△ヒント▽ 文章中に「夢」の語を求めよ。

〔二七〕

傍線部 a 「ついさつき」とは、節子が、どこで、何をし
ていたときのことか。次の中から選び、マークせよ。

- ① 壕舎の中で目覚めた時のこと
② 壕舎の中で、防空壕を掘った頃を思い出していた時のこと
③ 壕舎の中で眠って夢を見ていた時のこと
④ 防空壕に入れるものを考えていた時のこと

△ヒント▽ 「二年坊主」の兄に会った、ということの意味をとり違え
ないこと。

〔二八〕

傍線部 b は、どんな心情を表現しているのか。左の諸項
の中から最も適当と思うもの一つを選び、マークせよ。

- ① 昔も今も、妹である自分のことをかえりみようとしない兄の無
関心なよそよそしさに対するいきどおりと悲しさ。

- ② 自分をいたわってくれるはずの兄が、こどものままで、しかも
無関心でよそよそしいことに対するくやしさと悲しさ。

- ③ 自分はみじめな姿であるのに、兄が自分には無関心で、しかも
幸福そうに見えたことに対するねたましさとくやしさ。

- ④ 自分のみじめな姿を恥ずかしく思っていたが、兄が無関心をよ
そおっていてくれたことに対する感謝と感動。

△ヒント▽ 「節子」は兄の何に對して涙を流したのか。項目相互の微

妙な差に惑わされないこと。

〔二九〕

「思ひ出」の中の出来事を、現在の節子は、どういう気
持ちで思ひ浮かべているか。左の諸項の中から最も適当
と思うもの二つを選び、マークせよ。

- ① 後悔 ② 怨恨 ③ 懐旧 ④ 幸福感 ⑤ 孤独感
⑥ 反省 ⑦ 抗議

△ヒント▽ 「さつまいもの湯気の中で、笑いあった」は、どのような
雰囲気か。

〔三〇〕

右の文章の描き方について述べた文として最も適当と思
うものを、左の諸項の中から一つを選び、マークせよ。

- ① 主として節子の心にうつるものを、物理的な時間の流れとは関
係なく、その心にうつるままに描いている。

- ② 節子の内面と外側の状況とを、その時間の流れにそってたんだ
んと客観的に描写している。

- ③ 主として節子の内面を、作者が時間の流れをさかのぼりながら
説明する方法で叙述を進めている。

△ヒント▽ 〔二六〕をヒントにする。語り手は誰か。

* * *

次の文章を読んで、〔二二〕～〔二三〕の間に答えよ。

ある醜い——と言っては失礼だが、彼はこの醜さゆえに詩人
になんぞになったのにちがいない。その詩人が私に言った。

僕は写真が嫌いだね、めったに写そうとは思わない。四、五

年前に恋人と婚姻記念にとったきりだ。僕には大切な恋人なんだ。だって一生のうちにもう一度そんな女が出来るという自信はないからね。今ではその写真が僕の一つの美しい思い出でんだよ。

ところが去年、ある雑誌が僕の写真を出したいと言って来た。恋人とその姉と三人で写した写真から僕だけを切抜いて雑誌社に送った。最近また、ある新聞が僕の写真をもらいに来た。僕はちよっと考えたんだよ、しかしとうとう、恋人と二人で写したのを半分に切って記者に渡した。必ず返してくれるようにア「おいただが、どうも返してくれないらしい。まあ、それはいいさ。」

それはいいとしても、しかしだね、半分の写真、恋人一人になった写真を見て僕は実に意外だった。これがあの娘か。——ことわっておくが、その写真の恋人はほんとに、かわいくって、美しいんだよ。だって彼女はその時十七なんだ。そして恋をしている。ところがだ、僕と切り離されて僕の手に残った彼女一人の写真を見ると、イ「こんなつまらない娘だったのか」という気がした。今の今まであんなに美しく見えていた写真がだよ。——a 永年の夢が一時にしらじらと覚めてしまった。僕の大切な宝物がこわれてしまったんだ

してみると、——と、詩人は一段とウ「」。新聞に出た僕の写真を見れば、やはり彼女もきつと思うだろう。たとえ一時でも、こんな男に恋をした自分が自分で口惜しい、とね。——これで、みんなおしまいだ。

しかしもし、と僕は考える。二人で写した写真がそのまま、二人で並んで新聞に出たとしたら、彼女はどこから僕のとこ

ろに飛んで帰って来やしないだろうか。b ああ、あの人はこんな——と、言いながら。（川端康成『掌の小説』より）

文中のア「」・イ「」・ウ「」の中に入るべき語として、この文章の表現上、もっとも適切なものを次の中から選び、マークせよ。

- | | |
|---------|------------|
| ア | ウ |
| ① 期待して | ① ひょいと、 |
| ② 念を押して | ② うっかりと、 |
| ③ ためらって | ③ なんだ、 |
| ④ 確約して | ④ じいんと、 |
| ⑤ 指示して | ⑤ そうだ、 |
| | ① 顔を曇らした。 |
| | ② 目を輝かした。 |
| | ③ 醜い顔になった。 |
| | ④ 耳をそばだてた。 |
| | ⑤ 声を落とした。 |

△ヒント▽ ア「返してくれるように」、イ「だったのか」、ウ「みんなおしまいだ」から判断する。

〔二二〕 文中の傍線部aで、「しらじらと覚めてしまった」とあるが、それはなぜか。次の中から、もっとも適切なものを選び、マークせよ。

- ① 写真の中で、かわいく美しく思われた彼女も、今は年とったことが察せられたから。
- ② 写真を二つに切ったことで、二人の関係が断ち切られてしまったという実感がわいたから。
- ③ 自分と彼女との恋の思い出は、二人でとった写真の中にあるのだから。
- ④ 彼女もまた恋人であった自分と写真におさまったことを後悔しているだろうと想像されたから。
- △ヒント▽ 「永年の夢」とは何か。文中に同義語を求めてみよ。